

用語の説明

○基準地震動 S_s

新耐震指針に基づき、敷地周辺の地質・地質構造並びに地震活動性等の地震学及び地震工学的見地から施設の供用期間中に極めてまれではあるが発生する可能性があり、施設に大きな影響を与えるおそれがあると想定することが適切な地震動のことです。

○弾性設計用地震動 S_d

新耐震指針に基づき、耐震安全上重要な施設が基準地震動 S_s に対して安全機能が確実に保持できるよう設計するために、弾性設計用に設定される地震動のことです。また、新耐震指針では、弾性設計用地震動 S_d に対する許容される範囲について、局部的に弾性範囲を超える場合も認め、施設全体として概ね弾性範囲に留まることで十分であるとしています。

○弾性設計

機器や建物が地震力などの力を受けて変形してもその力が除去されれば元の状態に戻るような構造・強度で設計することです。

○海上音波探査

海上で、船から海底に向けて音波を発射し、海底からの反射波を受信することで、海底下の地質・地質構造を探る調査のことです。

○応答スペクトルに基づく地震動評価

地震による揺れは一般に地震の規模が同じであれば、距離とともに小さくなるため、地震のマグニチュードと震源からの距離により地震の揺れを評価する手法のことです。

○断層モデルを用いた手法による地震動評価

震源の広がりや断層面としてモデル化し、波の伝わり方、敷地の状況を考慮して、敷地での揺れを直接評価する手法のことです。震源近傍における地震動特性をより詳細に表せる半面、断層のモデル化、地震動評価には多くの情報を必要とします。

○せん断ひずみ

耐震壁が水平方向の力を受けた時、耐震壁の変形量を耐震壁の高さで除した値です。

○マグニチュード M

地震のエネルギーの大きさを表す尺度で、地震そのものの大小を示します。

○ガル

地震によって起こる揺れの大きさを表した加速度の単位です。揺れの大きさを震度より正確に表し、一般にガル数が大きいほど震度も大きくなります。